



日刊工業新聞

人材育成、海外交流に力

技術開発、競争力強化図る

日本金型工業会は1957年11月25日の設立以来、モノづくりの不可欠な金型の普及、技術の標準化に取り組みながら、金型産業の発展と、日本経済の成長に大きく貢献している。同工業会は9月に金型産業ビジョンを発表し、日本の金型産業が目指すべき方向性について示した。今後、高精度な金型や複雑形状の金型といった、今まで以上に高度な技術力が要求される金型を開発できるよう、人材育成や海外との交流などを通じて、競争力の一段の強化を図ろうとする同工業会の動きに対し、金型ユーザーなど、団体業界も大きな期待を寄せている。

日本金型工業会は「創造性の発揮」をテーマとして、取引条件の公正化や規格の標準化をはじめ、国際金型加工技術展（INTERNATIONAL）、アジア国際交流、金型経営大学などの活動を主な事業としている。同時に、関連団体と協同し、技術研修や情報交換の推進なども積極的に行っている。

こうしたなか、9月に「金型産業ビジョン」を発表した。昨年、経済産業省が「素材材産業ビジョン」を策定したことを機に、同工業会の考えをまとめる絶好の機会と認め、10年後のあるべき姿について作成した。そこでは技術力と営業力を兼ね備えた世界最高水準の金型供給基地を目指すという方向性のほ

か、金型産業の良さと補強すべき点ならびに弱点と克服すべき点を示している。これにより、個別企業の収益向上ならびに金型産業としての「ジャパンブランド」構築を実現しようと考えている。

また、技術者教育の強化活動の一環として、08年度から職業能力開発総合大学校東京校（東京都小平市、長俊夫校長、042・341・3331）と共同で、実践的な金型技術・技能習得に重点を置いた人材育成事業に乗り出す。企業での実習（オン・ザ・ジョブ・トレーニングOJT）と教育訓練機関での学習を組み合わせた金型技術教育は初めての試みとして注目されている。なお、新卒者を対象とし、すでに就業している人は対象としていない。

OJTカリキュラムは、職場でのマナーや汎用加工とNC加工、測定・品質管理、CAD/CAM、熱処理、金型仕上げ・調整などで構成。一方、能開大東京校は一般教育、材料工学、力学、機械加工などの座学のほか、各種工作機械、樹脂成形機や同校で開発した

金型設計用ソフトなどを
使って各種実習を行う。

中小企業が大半を占める
金型産業に托ける技術

・技能教育は徒弟制度的
な現場教育が多い。その

ため、技術・技能伝承に
時間がかかり、計画的に

人材を増やすことが課題
となっていた。仕事への

興味や問題意識を持ち、
現場の中核となる人材を

育成できることから、積
極的に同システムを採用

する動きが高まっている
だろう。